

---

# ネクタイ

金地院 豊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネクタイ

### 【NNコード】

N3845P

### 【作者名】

金地院 憂

### 【あらすじ】

一本のネクタイが紡ぐストーリー。

「 1 の間と同じものは置いてありますかね？」

その老人が店を訪れたのは、昼休みが終わってすぐの2時頃だった。

先週この店舗でネクタイを買つていった男性である。

その時も私が接客した。

「 まだ残っています。」

私は売り場を覗いてから答えた。

「 おお、それはよかつた。  
同じものが欲しいんだよ。」

「 同じものでよろしいんですね。」

私はピンク色のネクタイを取りながら確認した。

「 うちの事務所に新しく入つてきた子にね、この間のネクタイを褒められたんだよ。」

だから彼に同じものを買つてやろうかと思つて。」

老人は嬉しそうに言った。

「 もうと喜ばれると思ってますよ。」

私はネクタイを紙袋に入れた。

「彼は仕事熱心でね。

奥さんがいるのに残業続きなんだ。  
早く帰らなくていいのか、つて聞くと、彼は決まって”妻のために  
一軒家を建てたいんです。”と答えるんだ。  
今時の若者にしては珍しいなあ。」

そう言つて老人は帰つて行つた。

「お疲れ様でした」

6時ちようどに退社。

結婚してから、この習慣は一度も破られていない。

地元のスーパーで買い物をしてから、夫より先に帰路に着く。

夫は銀行に勤めているのだが、結婚してから3年経つても子宝には  
恵まれず、最近は夫婦の会話も少なくなってきた。

マンションに帰宅した私は、すぐに夕食の支度に取り掛かる。

先に夕食を済ませて待つていると、玄関のドアが開く音が聞こえた。

「ただいま。」

相変わらず元気のない夫がそこにはいた。

「おかえりなさい。  
遅くまでお疲れ様。」

返事はない。

私は夫のコートを受け取り、ハンガーに掛けた。

そしてすぐ、私は目を疑つた。

「そのネクタイ、どうしたの？」

私はピンク色のネクタイを指差して尋ねた。

「ああ、これが。  
貰い物だよ。」

夫は目を伏せながら答えた。

「事務所の上司さんに貰つたのよね？」

「えつ……」

夫が驚いたように目を見開いた。

「上司さんのネクタイを褒めたら、同じのを貰つた。  
そうよね。」

私は続けた。

「なんで…」

「知ってるも何も、そのネクタイを売ったのは私よ。  
どういうこと？」

私は声を荒げた。

「…」めん。

いつかは言つつもりだつたんだ。」

夫が息を吐き出すよつに言つた。

「半年ぐらい前に、銀行をクビになつてさ。  
大学の先輩の紹介で外国製家具の輸入を担う事務所に再就職したん  
だ。

お前に心配かけたくないくて、ずっと言えなかつたんだ。

本当に申し訳ない。」

夫がソファーに深く座り込み、大袈裟に頭を抱えた。

私は涙が込み上げてきた。

「なんで黙つてたのよ。

夫婦なんだから隠し事はしないって言つたのはあなたじゃない。

銀行をクビになつたなら、今の仕事で頑張ればいいだけじゃない。  
二人で一軒家建てようよ。」

私は夫の肩を抱いた。

そして一人で一晩中泣き明かした。

その日を境に、夫は人が変わったように明るくなつた。

収入が安定して、貯蓄も増えていった。

休日には、一人でモデルハウスを巡るようになった。

いつか一軒家を建てたら、あの上司さんを招きたい。

きっと驚くはずだ。

そんな事を考えながら、いつものように夕食の準備をしていた。

あ、そろそろ夫が帰つてくる。

今日の検査の結果を聞いたら、あの時みたいに驚くのかしら。

私は鍋を火にかけ、お腹を触りながら微笑んだ。

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3845p/>

---

ネクタイ

2010年12月10日20時33分発行